

ごあいさつ

本日は、戦後 80 年特別企画・喜劇『人類館』（2025 年新演出版）にご来場いただき、ありがとうございます。

知念正真『人類館』は、1976 年にコザで初演され、石垣・宮古公演を経て、78 年に東京で上演されると、その年に「演劇界の芥川賞」と呼ばれる岸田戯曲賞を受賞しました。沖縄の劇作家の作品が同賞を受賞するのは初にして、現在に至るまで唯一となっており、まさに戦後の沖縄現代演劇を代表する戯曲の一つと言えます。

今年は戦後 80 年であると同時に、沖縄国際海洋博覧会から 50 年、大阪では再び万博が開催されるという節目の重なる年。この機会に、1903 年、大阪の第 5 回内国勸業博覧会会場近くで開催された「学術人類館」とその後の「人類館事件」をモチーフに、皇民化教育、沖縄戦、米軍統治とベトナム戦争、本土「復帰」を織り込んだ『人類館』を上演することで、ご来場の皆様とともに歴史を振り返り、現在と未来を見つめ直すことができれば幸いです。

差別に遭い、抑圧に苦しみ、迫害に泣く存在とともに書かれた『人類館』は、加害と被害を分断・固定せず、人間関係は絶えず入れ替わり、時代は行き来し、沖縄口と沖縄大和口、歌と踊りが混じります。作者の娘である知念あかねさんが「喜劇」と銘打って上演を続けるのは、この作品に描かれた内容が滑稽だからでしょうか、理不尽を笑うしかないからでしょうか、あるいは「喜劇」として捉えることで、どこかに希望が見えてくるからでしょうか。

なお、那覇文化芸術劇場なは一とでは、2022 年にも「復帰」50 年特別企画として別演出にて喜劇『人類館』を上演いたしました。幸いにも上演は多くの御縁につながり、このたび、新演出版は那覇公演後、国際芸術祭「あいち 2025」で上演されます。開館から 4 年を迎えたなは一とが新しい作品を制作し、県外の国際芸術祭に招聘されるようになったことは、ひとえに市民の皆様や劇場のお客様に支えていただいたお陰であり、深く感謝申し上げます。

結びに、AKN PROJECT 様や、これまで『人類館』の上演史を紡いできた皆様をはじめ、本公演の実現にご尽力・ご協力いただきました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

那覇文化芸術劇場なは一と

## 戦後 80 年特別企画

### AKN プロジェクト 喜劇『人類館』（2025 年新演出版）

作：知念正真

出演：井上あすか、神田青、仲嶺雄作

演出：知念あかね、新垣七奈

ドラマトゥルク：林立騎〔那覇文化芸術劇場なは一と〕 舞台美術：佐々木文美 衣装：藤谷香子 音響プラン：山口剛〔(同) ネクストステージ〕 照明プラン：棚原栄作〔(株) エムエルスタジオ〕 舞台監督：津嘉山弘〔月光道 (同)〕 音響オペレーター：屋比久夏芽〔(株) エスエルアイ〕 演出助手：山本舞子 演出部：砂川政秀 音響アシスタント：嘉陽桃瀬 衣裳管理：かもめだかもめ 英語字幕操作：比嘉啓和 バリアフリー字幕操作：渡久地準 大道具製作：(同) みやぎ大道具 小道具協力：玉城琉いずみ会 衣裳製作：梅津佳織、土田寛也 演奏：比嘉啓和（歌三線）、村上佳子（歌三線）、砂川政秀（太鼓）、長濱良起（ギター、ハーモニカ）、上地広季（トランペット）、古堅晋臣（ウクレレ）、新垣七奈（三板）、知念あかね（バイオリン） 沖縄ことば指導：花城清長、上江洲朝男 英訳：金城正樹 イラスト：大白小蟹 宣伝美術：アイデアにんべん バリアフリー字幕デザイン：南部充央 ハラスメント防止研修：植松侑子 制作：AKN プロジェクト・喜舎場梓

那覇文化芸術劇場なは一と

技術統括：岸本智治 制作：土屋わかこ、村上佳子 広報：山上順子 管理運営：那覇文化芸術劇場なは一と 舞台技術：(有) 新舞台劇場案内：(株) 沖縄コングレ 託児：すけっと in ナハ

主催：那覇市 共同製作：国際芸術祭「あいち」組織委員会 企画制作：那覇文化芸術劇場なは一と、AKN プロジェクト、国際芸術祭「あいち」組織委員会